

進捗状況の概要【1ページ】

全学でAPU Global Learningを推進し、APUが目指す「4つの100」すべてにおいて数値が向上

初年次学生
教育寮 100%
2013年度 57.2% → 2016年度 81.2%

多文化協働学習等
実施科目100%
2013年度 67.0% → 2016年度 83.3%

在学中の多様な
海外経験100%
※国内学生のみ
2013年度 29.4% → 2016年度 81.3%

留学生出身国・
地域(常時) 100
2013年度 79カ国・地域 → 2016年度 90カ国・地域

【教 育】における主な取り組み

教学改革を実施し、全ての学生生活の過程に無数の成長の機会を設ける「Global Learning」を推進

▶ In-Class Challenge

多文化協働学習の「実践ハンドブック(日英)」を作成し、全専任教員へ配布。多文化協働授業実施率は83.3%へ。さらに質の高い模範となる「多文化協働学習モデル授業」をスタート。

▶ Abroad Challenge

途上国フィールドスタディ、学生主導の複数国地域フィールドワーク等の各種新規プログラムを開発。

▶ On-Campus Challenge

多文化キャンパスを利用したピアリーダートレーニングを充実。正課外も含む様々な活動を通じた学生の成長を可視化・測定する仕組みを導入。

▶ In-House Challenge

国際教育寮を活用したオナーズプログラムを2016年秋より開始。また、寮(APハウス4)を増設。

【質 保証】における主な取り組み

国際認証AACSB取得と全学的な学びの質保証の加速

- ▶ AACSBの厳しい認証基準をクリアし、国際経営学部・経営管理研究科がAACSB認証を取得。
- ▶ APUのAACSB取得の経験を全世界のビジネススクールの質保証へ還元(QS-Asia、QS-MAPLEなどで報告)。
- ▶ AACSB取得の過程で得た学びの質保証(AOL)の経験を、全学へ波及(AOL委員会設置)。学生のアセスメントを前提としたLearning Goalを全学部・研究科で設定。2017年度には実際の評価・測定を計画。
- ▶ 世界的なビジネスケースコンペティションに学生が積極的に参加。2016 サウダーサミット・グローバル・ケース・コンペティションでAPUが3位入賞。
- ▶ 他の分野・学部における新たな国際認証(EQUIS、TedQual等)取得への挑戦を開始。

【連 携】における主な取り組み

APUステークホルダーとの多様な連携を推進

- ▶ キャロル・カレッジ、セント・エドワーズ大学(米)、プレジデント大学(インドネシア)との海外重点拠点構築が進展。
- ▶ AACSB認証取得にともなう国際的ネットワークが拡大。海外AACSB校との共同学習研修プログラムを実施。
- ▶ 国際経営学部にて、日本企業と連携したビジネス・キャプストーン科目を開講。
- ▶ 全世界の卒業生がAPU教育に参画する取り組みを多数実施(例、海外卒業生勤務企業・機関等インターン)。

海外協定校の数と協定校からの受入留学生数

2013年度 111校・92名 → 2016年度 151校・241名



【入 学】における主な取り組み

比類のない圧倒的な多文化環境の実現

- ▶ アフリカ等希少国(学生数の少ない国)での募集活動を強化し、多国籍かつ過去最大の留学生受入数(2017年5月1日時点在学の留学生数2,948名)を達成。
- ▶ 海外トップ高校との学生推薦協定の締結を促進し、協定先は109校に(2017年5月1日現在)。
- ▶ 国境を越えた高大接続:海外高校生がAPUのマルチカルチュラルキャンパスライフを体験するプログラムを実施し、これまで約150名が参加。
- ▶ 世界で活躍する卒業生の経験や人的ネットワークを活かした入試メンター制度「Admissions Ambassadors Program」を策定し、2017年度より稼働予定。

【大学組織・運営】における主な取り組み

FD/SDを強化し、教職員の高度化を促進

- ▶ FD/SDを全学で実施する「グローバル教職員開発インスティテュート」を開設。
- ▶ 大学運営を支える職員対象の研修を実施し、語学力や異文化対応力を強化。全職員に占めるTOEIC800以上の割合は48.7%に到達。
- ▶ APU教員の多様性:専任教員に占める外国籍教員・外国の大学で学位を取得した日本人教員等割合は85%に。
- ▶ IR(Institutional Research)の高度化を進め、全学生の入学～卒業までのデータをデータウェアハウスへ統合完成。戦略的活用を開始。

国際教育寮を増設し(APハウス4)、初年次学生全員が教育寮を活用できる基盤を整備

2013年度 1,646室 → 2016年度 1,847室



APU Global Learningを推進した5つのグッドプラクティス

Good Practice 1: 教員の高度化

多文化環境における授業運営の高度化—教員の約20%がミネソタ大学と連携したFDプログラムを受講

大規模講義における双方向型授業運営手法や英語による授業運営力の向上等を目的とした「ミネソタ大学との連携FDプログラム」を実施。多様な学修歴、学びのスタイルをもつ学生が集まるAPUにおいて、授業運営をする教員には高いスキルが必要とされる。参加教員は、ミネソタ大学の講師による授業運営のコンサルテーションやコースデザイン、アセスメントに関するアドバイスを受けながら、1年をかけてトレーニングを受講。2016年度までで22名が受講しており、2023年には教員の80%がプログラムを修了していることを目指している。

<プログラム受講教員の声>

“講義の質がかなりあがったことは明らかで、FDについての意識化のスタートが切られたことが大きな効果”

“学生の視点が内面化され、学生の満足度が確実に上がった”

Good Practice 2: 職員の高度化

多文化キャンパスを支える職員の言語運用能力の底上げ—TOEIC800点相当は62.8%*に

TOEIC800点未満の職員を対象に英語研修を実施し、職員全体の言語運用能力を向上させた。また、海外研修に職員を多数派遣し、多文化環境における大学運営のためのスキルと知識を向上させた。研修終了後は報告会を開催し、研修で得た知見を広く他の教職員に共有した。

*英語不問の有期契約職員(事務職)を除く全職員における割合

全職員に占めるTOEIC800点相当の割合
2013年度 38.7% → 2017年度 48.7%

全専任・特定・専門契約職員におけるTOEIC900点相当の割合
2013年度 35.7% → 2017年度 39.4%

母語以外で業務遂行可能な職員(雇用期限無し)は86%へ

Good Practice 3: 国際認証取得

開学17年目にして世界5%のビジネススクールの仲間入り—国際認証AACSB取得



国際経営学部と経営管理研究科では2008年よりAACSB認証取得の取り組みを開始、2016年8月に同認証を取得した。現在世界に16,000以上あるビジネススクールのわずか5%にあたる52カ国775校がAACSB認証校であり(2016年8月時点)、日本国内での認証取得は本学が3校目、英語で学位取得ができる学部・院としては、日本初の認証取得となる。認証取得後も、継続した研究成果の発表や、学びの質を担保するための取り組みが求められるため、引き続き高い水準での教育・研究の維持向上に取り組んでいる。

AACSBの取得により、世界のトップビジネススクールとの共同学生研修プログラムの新設など、AACSB認証校との連携が加速。国際的ビジネススクールアライアンスの構築具体化を進めている。

Good Practice 4: IRの強化・活用

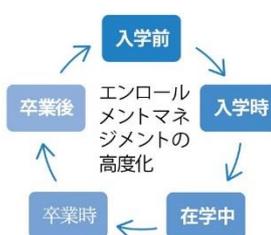
学生に関する様々なデータの一元管理と戦略的データ活用

学生の多様な学びや経験を、あらゆる側面から分析し、学生実態を把握、教学や学生サービスの質向上、学生募集等への戦略的活用を進めた。データウェアハウスを整備し、学生に関するあらゆるデータ(学籍・成績等のデータやアンケート等による学生の定性的データ等)を一元管理することで、包括的な学生実態分析が可能に。新入生および卒業時アンケートは、対象者のほぼ100%のデータ収集を実現し、より精度の高い分析を行った。

IRの強化により、入学前や卒業後も含む、様々な時点の学生データの収集・分析が可能に

戦略的政策立案にデータを活用

<これまでのデータ活用例>
▶アドミッションポリシーに沿った学生募集政策の策定
▶学生実態を踏まえた2017年度教学改革 など



Good Practice 5: 卒業生連携

学生の高い満足度と世界127カ国に広がる卒業生との連携深化

通常の生活では関わるのが稀な多様な国・地域の学生と生活を共にし、多文化協働の様々な経験を積んだAPU生は、高い満足度を持って卒業していきことが学生調査から明らかになった。この高い満足度が、卒業後も母校に様々な形で協力・貢献をしてくれる原動力となっている。2017年6月時点で卒業生組織数は31に(内24は国外)。各国現地事務所と連携しながら国内外に広がる卒業生の情報把握を強化しつつ、卒業生と連携した新規企画を立ち上げた。特に国内外多様な進路を志向する学生のキャリア支援や、国・地域の特性を踏まえた学生募集等で卒業生連携が進んだ。

<卒業生連携企画の例>

Global Human Library with APU Alumni

卒業生のプロフィールを収集、記録し、在学生が卒業生を「教材」として活用できる「ヒューマン・ライブラリー」を13名分作成・公開。

Global Internship with Alumni

卒業生が勤務する国内外企業等へのインターンシッププログラムを開拓し、2017年2月より派遣を開始(インドネシア、東京、福岡等)。